私のみた アメリカの国立公園

佐藤良昭

テレビ・写真そして映画で　アメリカの国立公園なるものにしばしばお目にかかったことはあるが　しかしその規模の雄大さ　景色の素晴しさというものは　狭い日本の景色から想像していたものとは　段ちがいであることを　実物を見てはじめて　つくづく思い知らされた．1964年現在　アメリカには32の国立公園があり　その総面積は約5万5千km²　日本の四国と九州を合せた面積あるいは本州の1/4の面積を占めている．　そしてその大部分は西部地域に集っている．　私はその中の5つの公園を見学する機会に恵まれたので　その時の感想および公園の管理や自然に関し　少し書いてみようと思う．

公園といってもその広さは　たとえばイエローストーンは四国の半分近い面積を持つといわれ　各公園ともそれを十分見物し　たん能しようと思えば数日以上を要しよう．　自然は完全に保護されており　人工物が自然の景観を損うことのないように配りょされ　動物・植物・地質に興味を持つ人々はもちろん　ただ観光を目的にきた人たちでも　その魅力にはひきずりこまれずにはいられないだろう．

アメリカの国立公園（1964年1月1日　現在）

名称	制定年	州名	大きさ km²	比較（日本と比べて）
アカディア	1919	メーン	130	壱岐位の大きさ
ビッグベンド	1944	テキサス	2,840	佐賀県
ブライスキャニオン	1928	ユタ	150	伊豆大島
キャニオンランズ	1964	ユタ	1,040	東京都×1/2
カルルスバッドキャバン	1930	ニューメキシコ	180	小豆島あるいは平戸島
クレーターレーク	1902	オレゴン	650	琵琶湖
エバーグレース	1947	フロリダ	5,280	千葉県と三重県の間
グレーシャー	1910	モンタナ	4,090	長崎県
グランドキャニオン	1919	アリゾナ	2,720	佐賀県
グランドテートン	1928	ワイオミング	1,220	琵琶湖×1 1/2
グレートスモーキーマウンテンズ	1930	ノースカロライナとテネシ	2,060	東京都
ハレアカラ	1961	ハワイ	70	浜名湖または洞爺湖
ハワイボルケーノーズ	1916	ハワイ	815	佐渡
ホットスプリングス	1921	アーカンソー	4	
アイルロイヤル	1940	ミシガン	2,180	東京都
キングスキャニオン	1940	カリフォルニア	1,840	香川県
ラッセンボルケーノ	1916	カリフォルニア	430	対島の下島
マンモスケーブ	1936	ケンタッキー	210	八郎潟
メサベルデ	1906	コロラド	210	天草上島
マウントマッキンレー	1917	アラスカ	7,860	静岡県
マウントレーニア	1899	ワシントン	980	京都×1/2
オリンピック	1938	ワシントン	3,600	奈良県
ペトリファイドフォレスト	1962	アリゾナ	380	霞ケ浦×1/2
プラット	1906	オクラホマ	4	
ロッキーマウンテン	1915	コロラド	1,050	尾久島×2
セコイア	1890	カリフォルニア	1,550	奄美大島×2
セナンドーア	1935	バージニア	790	奄美大島
バージンアイランド	1956	バージン諸島	40	
ウインドケーブ	1903	サウスダコタ	110	猪苗代湖
イエローストーン	1872	ワイオミング・モンタナ・アイダホ	8,960	鹿児島県または四国×1/2
ヨセミテ	1890	カリフォルニア	3,070	茨城県×1/2
ザイアン	1919	ユタ	540	天草下島

このように立派な公園が現在は多く存在するが　その制定までには　やはりいろいろと問題もあったようである．　たとえばイエローストーンは1872年国立公園第1号として誕生したが　一方グランドキャニオンは1887年に B. ハリソンがまずここを国立公園にしようと法案を通す運動をしたが　公私とも反対が多くて実現しなかった．　1893年にハリソンはこの地域をグランドキャニオン保護森林 (Forest Preserve) とすることに成功したが鉱山や製材業は　そのまま稼動を続けることが許されていた．　1903年 T. ルーズベルト（第26代大統領）がこの地を訪れ　“この雄大な景観を傷つけてはいけない　子子孫孫の時代まで　このままの姿で遺すべきだ”といって　1908年　天然記念物に制定され　1919年にやっと国立公園になった．　ハリソンの運動がおきてから実に30年以上の年月を経て　やっと法案が通ったわけである．公園を維持・管理するための入園料は　16才以上1人1回につき50セント（180円　1965年現在）となっており公園の入口付近にある料金徴収所で払うとその公園のパンフレットをくれる（写真①）．　7ドル（2520円）払ってステッカーを貰い車に貼るとその車で1シーズン中ならどの公園に何回でも入ることができる．　名所や景色のよい所には駐車場がありゆっくり見物できるが　その途中はたいてい駐停車禁止で勝手な場所に車を止めるわ

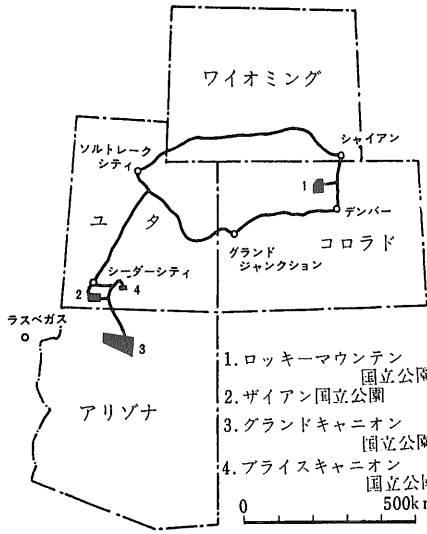
① アメリカ国立公園のパンフレット類

けにはいかない．　内部にはキャンプ場の設備もある．自動車で見物するほかに自動車の入り込めない長短手ごろなハイキングコースないし散歩道（Trail）も　幾本か整備されており　ゆっくりと自然を楽しめるようになっている．　ここでパンフレットから抜き書きした　各公園に共通な一般的規則をみてみよう．

1. 公園内の草木・岩石・動物等を移動し　採集し　傷つけることは固く禁止されている
2. キャンプは指定された場所で行なうこと
3. キャンプ　ファイアは指定された所だけならばしてよろしい
4. 自動車の最高速度は　それぞれの公園によって異なるが約70km または 55km　山道のカーブでは 32km となっていることが多い
5. 狩猟は禁止　魚釣りには州の許可が必要
6. 飼犬・猫などは常につないでおかなければならない　またハイキング　コースなどの小道に連れこんではいけない
7. 動物に餌をやってはいけない　リスにかまれないようにすること（病気が伝染することがある）　毒草に注意すること

この他　このパンフレットには　地質・植物・動物についての説明があり　地図ものっていて　どこで何がみられるか　この公園に来るための交通　宿泊設備の状況　医者　教会　キャンプ場の設備　日用品の買物のできる場所などについてまで　こん切ていねいに記載されている．　このパンフレットは公園に行かなくとも1部の値段約15セント（各パンフレットの値段を書いたリストは無料）でワシントン D.C. の米国印刷局に申込んで購入することもできる．

どこの公園でも入口付近に　Visitor's Center　と博物館が備わっており　ここで一般的な知識を得ることができる．　またレインジャー（公園の保護官）やナチュラリスト（公園の説明官）が多数いて公園の保護にあたると同時に　夜間はホールでその地域の自然（動物・植物・地質）についてスライドを用い1時間位の説明会を開いたり　代表的な徒歩コースへ毎日定時に出発して　途中の説明をしてくれるシステムがある．

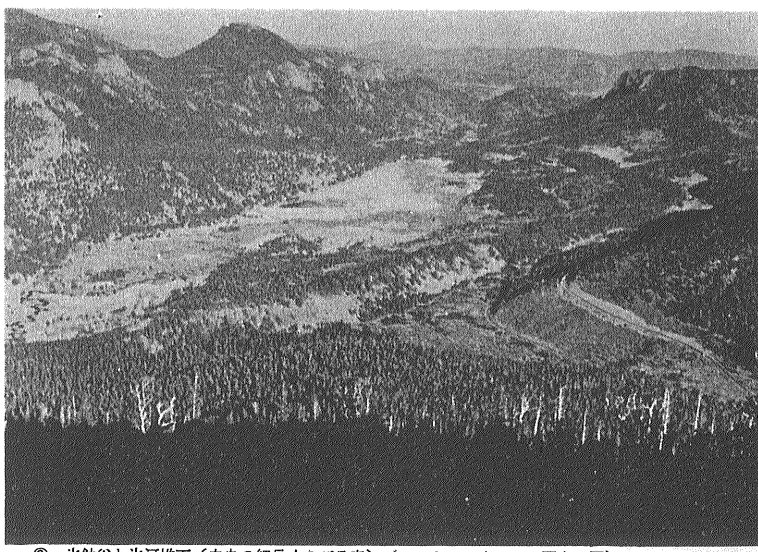


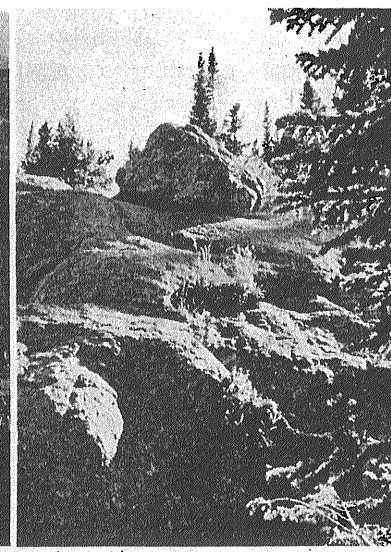
公園位置図

次に各公園についてその様子をながめてみよう．

ロッキーマウンテン国立公園（コロラド州1915年制定）

米国滞在の初期のころ案内されたのがこの公園で　すべての点に驚嘆したので一番印象深い．　デンバーの北西約100kmの所にあるが　まず途中のハイウェイを時速110km強（これが制限速度）のスピードで飛ばされた時にはその速さと　すれ違う車との爆発音のような風圧の音で尻がむずむずし出し　とうていドライブを楽しむ気分にはなれなかった．　道路には飛び出してきてひかれたリスや兎のペシャンコになった死骸が点々とあり　フ

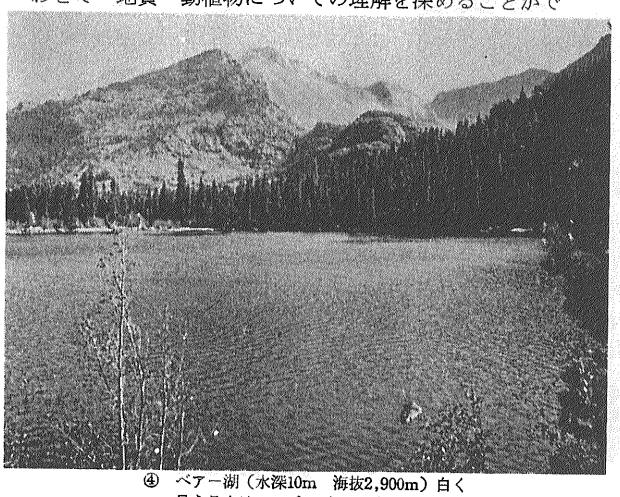

② 氷蝕谷と氷河堆石（中央の細長くのびる森）（ロッキーマウンテン国立公園）


③ 迷子岩（氷河によって遠くから運ばれてきた岩）（ロッキーマウンテン国立公園）

ロントガラスは　車にぶつかってつぶれた虫のため（最初は雨かと思った）視界がだんだんと悪くなってくる．ついでながらこのようなスピードで追越をする時は　日本でしばしばみかけるような急ハンドルを切ることは危険この上もない．　まず左の方向指示器をつけてから左後方を一瞬振りかえって後続車のないことを確認し（コロラド州では右に車線を変える時は右後方　左の場合は左後方を振りかえって確認することが規則づけられている）ゆるい角度で追越専用車線に入り追越した車との距離が十分離れてから　また右側の車線に戻る．　完了までには 1 km 位走ってしまうだろう．　話が一寸脱線しかかったが　このようにして行くうちに　中生代の赤色砂岩・頁岩層のゆるく傾いているのがみられ　そして公園に入ると一変して先カンブリア時代の変成岩の露出となる．　ここで生れて始めて洪積世の氷河が作った氷蝕地形やモレイン（氷河堆石）のえんえんと続く有様をみて　思わず息をのんだ(写真②，③)．　氷河にけずられた山肌は太陽を反射してきらきら光り　野生の鹿が群をなして道路を横ぎり　空はあくまで青く　木木はみごとに紅葉し　全く目もあやな色彩ゆたかな世界であった．

公園の面積は約 1000km² （東京都の半分）高度は2500 mから4300m（ロングスピーク）にわたり　自動車で通過できる最高地点は　3700m（富士山の高さ）である．樹木の生えている限界線は3500m　しかしまわりの山々は丘陵のようになだらかな起伏がつづくため低い山にいるような錯角をおこす(写真④)．　だが一歩車の外に出てみると夏でも寒くてジャンパーを離せないし　また少し急ぎ足で歩けば　頭痛・息切れを覚え　4000m近い高さにいることを身をもって知らされる．

ベアー湖（写真④）の Trail の入口には　コースの途中の説明を書いたパンフレットがあり　自由にそれを取り　湖を一周しながら　途中番号のついた標識と照し合わせて　地質・動植物についての理解を深めることができる．　22番は “Human Engravings” 白樺の幹にご多分にもれずほり込みがしてあるが　その説明書に曰く “最高の生物による重大な破壊がここにみられる．　この生物は２本足と２本の腕を有し　国立公園は皆のものであるということを教えこまれるための発達した脳を持っている．”



④　ベアー湖（水深10m　海抜2,900m）白く見える山はロングスピーク（海抜4,300m）（ロッキーマウンテン国立公園）

自動車道路の他に多数のハイキング　コースや登山コースもあるが　入口には登録簿があって　日時・人数・行先を記入することになっており無視する者もいない．

公園内に宿泊設備はないので　公園入口にあたるエステス　パークかグランド　レークに泊ることになる．しかしデンバーから割合い近いため　夏季には同市からコロラド交通 Co. が宿泊費込みの観光バスを運転しているようである．　公園の開いている期間は６～９月で冬は道路が閉鎖される．　しかし入口に近い一部のみはウィンター　スポーツのために開放されている．

ザイアン・グランド　キャニオン・ブライス　キャニオン国立公園

この３公園を訪れた時のコースは　デンバーからグレイハウンド　バスでシーダー　シティ（ユタ州）まで行きここから上記３公園を４泊５日かかってまわるユタ公園 Co. の観光バスを利用した．　お客は15人位で中年以上のおばさんが多かった．　これが上記期間中　行動を共にするのでお互いにずい分親しくなる．　観光バスの運転手（バスはワンマンで運転手がガイドを兼ねる）はユタ大学の学生であり　またロッジのウェイター　ウェイトレスも皆ユタ州諸大学の男女学生による夏季アルバイトである．　学生アルバイトといっても礼儀は正しくて最近の東京でしばしばお目にかかる　そこいらのレストランのウェイトレスたちに見習わせたいほどだ．

ザイアン国立公園（ユタ州　1919年制定）

ザイアンという名はモルモン教徒がつけたもので「神の楽園」の意である．　この公園の面積は約540km² (東京都の1/4) で公園内には総延長30km の道路と250km に及ぶ小道が走っている．　案内書によれば近くの病院まで35km ないし100km あるというが　このことをそれ程恐れるにはあたらない．　自動車で30分ないし１時間の距離にあるということである．　地層は中生代ジュラ紀？（化石がないため上下の地層から類推している）のナバホ砂岩累層と呼ばれる赤色砂岩からなり　砂漠の堆積物といわれている．　この砂岩の厚さは約 600m に達し谷はこの地層の最下部付近まで深くえぐっている．　その谷底の道路から仰ぎみると　さまざまな形をしたほとんど垂直な数 100m の高さの赤色の岩壁が　連続して眼

前にそそり立ち(写真⑤) その上部には 大偽層 (Cross bedding) が発達しているのを望むことができる. この偽層は東へハイウェイの九十九折の道を上って行くとこんどは車の両側に次々と展開してくる. この規模の大きさは 想像外のものであり 米国の地質の教科書には必ず引用されている(写真⑥). そして東の入口に近づく頃 チェッカー ボード メサ (高度約2100m写真⑦) の美しい縞目模様の山が眼前に現われてくる. このメサ (小台地) は道路との高度差が約 300m あり 全山が縦の方向に発達している節理と 斜め横に発達した偽層のため格子縞のような模様におおわれているのである. ハイウェイでは車を停めるわけにいかないので動く車中から次々と写真を撮ったが なかなか満足のいくものはうつせなかった. チェッカー ボード メサも駐車場からやっと狙ったので観光えはがきと全く同じ構図になってしまった.

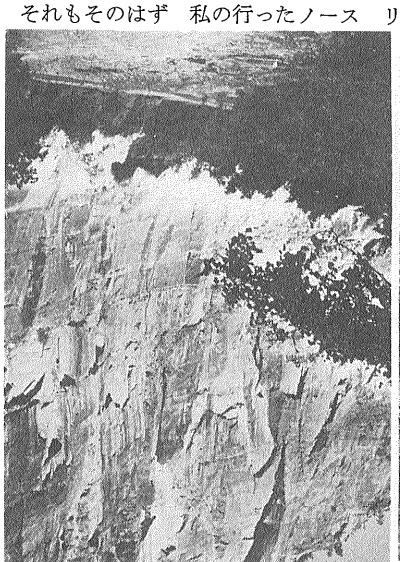
ここを通り抜けて進路を南にとり ユタ州を過ぎアリゾナ州に入る. バスは所々にビュット (小さなメサ) のみえる平原を飛ばしに飛ばすが それ程速いという感じもしない. まわりに車はほとんどみえず 西部劇でおなじみのインディアンでも出て来そうな景色が 1時間以上も続く. さすがにこの州では交通標識も変っていて 暴走を防ぐため "レーダーによりスピードをチェック中" とか "飛行機によりハイウェイをかん視している" といったものがみられる.

グランド キャニオン国立公園 (アリゾナ州 1919年制定)

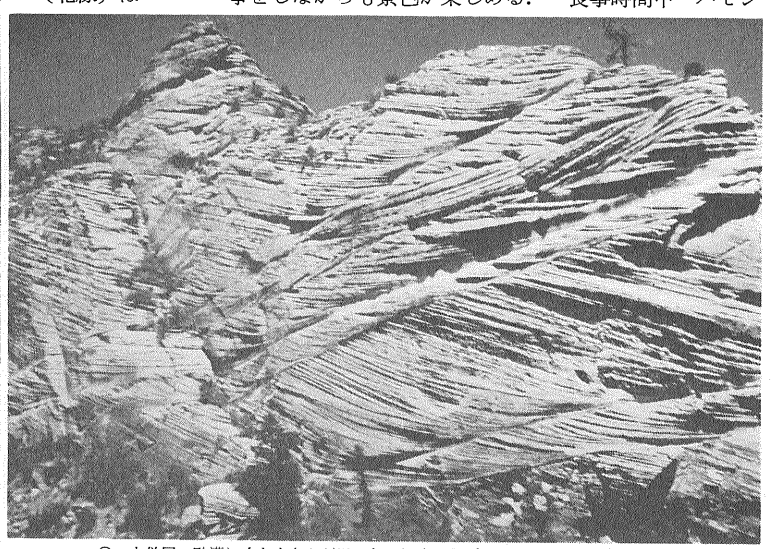
カイバブ (Kaibab) 高原 (長さ80km 幅55km) を南へグランド キャニオンに近づくと 6月末というのに森の所々に雪が残っている. 空気もひんやりと冷い. それもそのはず 私の行ったノース リム (北縁) は観光客の多いサウス リム (南縁) より 300m も高く高度は2400m 冬には道路が閉鎖されてしまう所なのだ. ここを尋ねるには何時でもセーターか上衣がいるし 用心のためにレインコートも必要であろう. ノース リムとサウス リムの間の谷幅は約 13km であるが 車で向う側へ行こうと思ったら 大峡谷のために 300km もまわり道をしなければ行きつけない.

現在みられるグランド キャニオンの長さは 350km 幅は13km 谷の深さは1600mに達し その谷壁には 上より二畳紀 石炭紀 デボン紀 カンブリア紀 そして谷底には先カンブリア時代の変成岩類と数億年以上にわたる地球の歴史を秘めた諸岩石が ほぼ水平に露出している. これら諸地層の他にこの谷壁の海抜 600m より 2700mの間には 5つの生物帯が区別され さらにコロラド河をへだてた北と南では 生物相にも違いがみられる. 今から約 700 万年前より河の下刻作用が始まった. 平野を流れていたコロラド河は 地塊の上昇がはじまったために 下方への浸蝕作用を強め できた谷へは両側から水が流れこんだり 地すべりがおこるため 谷の幅もだんだんと広くなっていき ついに現在みられるような大峡谷ができ上ったのである. しかも現在なお 毎時11km の速さで流れているコロラド河は毎日 50 万トンもの砂や泥を運び続けて その浸蝕作用は一刻たりとも休むことがない.

バスをおりて展望台に立って見ると 写真やシネラマでみた通りの景色がぐっと眼前一杯に広がる. この時の気持は何ともことばでは表現のしょうがない. とにかくはるけくも来つるものかなと 胸の奥にジーンとこみ上げてくるものがあった. ロッジの食堂は崖っぷちにあり 大きな窓ガラスが周りにはめこんであって 食事をしながらも景色が楽しめる. 食事時間中 ハモン



⑤ 赤色砂岩層の大岩壁 この垂直な壁の高さは 600m を越している (ザイアン国立公園)



⑥ 大偽層 砂漠に吹きすさんだ風のために生じた (ザイアン国立公園)

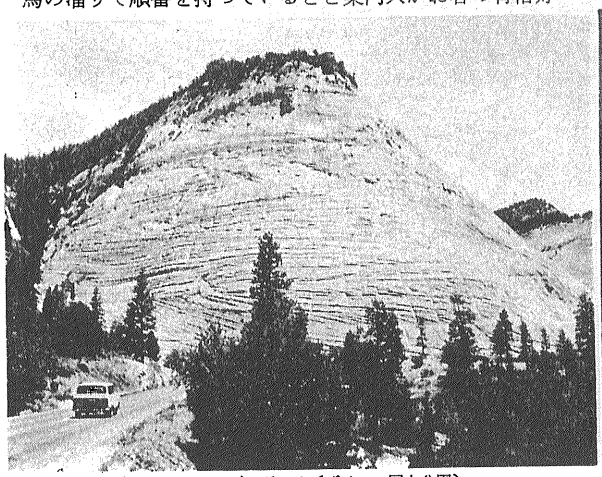
ド・オルガンでグローフェの「大峡谷」を演奏していたが　現地で聞くこの音楽は　あまり上手とはいえない演奏ながらも　なかなかよきものであった．　周囲に水がないため　約900m下の谷から水を汲み上げて使用しているので珍しく水を節約しようとのポスターが貼られている．　しかしロッジ（日本にも同じ名前のものがたくさんあるが）にはシャワーがついておりもちろん水洗便所である．　また夜間冷えこむため（6月末で朝は0度近かった）ガス　ストーブも設備してあった．　ここからもよりのスーパー　マーケットまでは160km　町まで140km あるとのこと．

ここでの観光としては　広大な景色を全部みつくすため　飛行機も用意されているが　簡単にみるならば観光バスが運転されており　ミュール（らば）旅行は有名である．　歩いてでも谷は下りられるが　歩く場合の注意としては　行きが下りで　疲れた帰りが昇り坂になることを念頭におきスタミナの配分を考えること　夏はロッジ付近で気温5度位なのが谷底では50度にもなり　これはカナダからメキシコまでの温度変化に匹敵するので水を1日につき約4l 準備すること　帽子と長袖のシャツは必需品である．　小道では　らばが通行の優先権を持っているので　途中で出合ったら　歩行者が道の谷側に静かに立止り　らばの通り過ぎるまで待たなければならない．　また谷底で事故のおこった場合　緊急電話で連絡すれば案内人とらばが送られるが　その費用はある一定距離内で35弗（約13,000円）　午後4時以降ならば14.500円　場所が遠ければさらにそれ以上の費用のかかることを念頭におく必要がある．

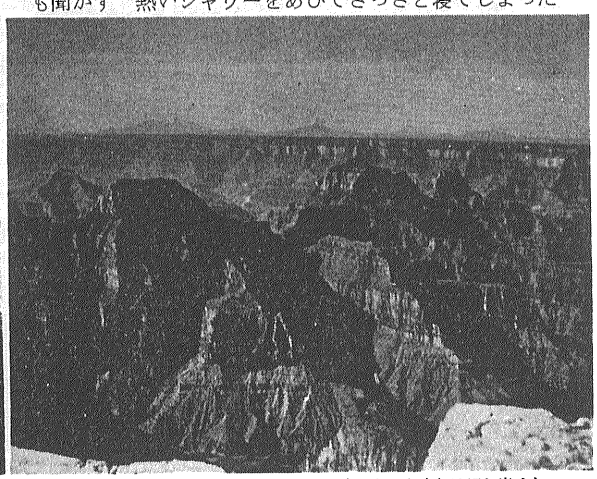
デンバーで友人の地質屋からすすめられていたことと生来の物好きから　飛びこみで　らば旅行の申込をしたら幸い1人分があまっていた（本来は予約が必要）が往復と弁当付で13弗あまり　かなりよいお値段である．馬の溜りで順番を持っているとと案内人がお客の背格好目方をにらんでは馬をあてがい　背中に押し上げてくれる（12才以下の子供と90kg 以上の体重がある人は最初からお断りである）．　私は足が短いため　あぶみを調節してくれたものの　それでも足を伸して一ぱい一ぱい案内人の英語はまたものすごいなまり（だろうと思う）で　全然わからず　まして馬をぎょする言葉も日本語でさえ知りはしない．　少々不安はあったが　なんとかなるだろうと　今までの滞在で身につけた心臓で　えいとばかりに乗り出した．　案内人1人についてお客が10人総勢3群　33匹のらばが　7.5km 先のローリング　スプリングめざして出発した．

馬の背からみた道幅は1mにも満たないように思われがらがら石の坂道では　時々馬が足を滑らせる．　途中100m 以上も真下が見下せる断崖沿いの道を通った時には　ついに景色どころではなくなり　写真をとることなど思いもよらず　反対側の山の石を一生けん命ながめて一刻も早く通り過ぎることを願った．　馬はおとなしくて先頭が止れば止り　適当な速さで歩き続けるので心配はないのであるがこの時ばかりは　おっちょこちょいを内心後悔し　はるかな妻子のことが一瞬頭をかすめた．

しかし　二畳紀の砂漠堆積物である白色砂岩　赤い泥岩からなる河成堆積物　砂岩・泥岩のはんらん原堆積物石炭紀の石灰岩　そして平行不整合をはさんで　生れてはじめてみるカンブリア紀の石灰岩と　上部から順々に2億5千万年前から5億5千万年前までの地球の歴史を物語っている地層を眺めた感激　まさに　らばという名のタイム　マシンに乗った心持さえした．　ローリングスプリングまで下りは2時間　しかしここからコロラド河までは　まだまだ遙かに遠い．　むっとするような暑さの沢の中で約1時間　食事をしたり歩きまわったりした後　今度は3時間を費やして　やっと出発点に戻ってきた．　その晩はレインジャーやナチュラリストの講演も聞かず　熱いシャワーをあびてさっさと寝てしまった



⑦　チエッカーボードメサ（ザイアン国立公園）



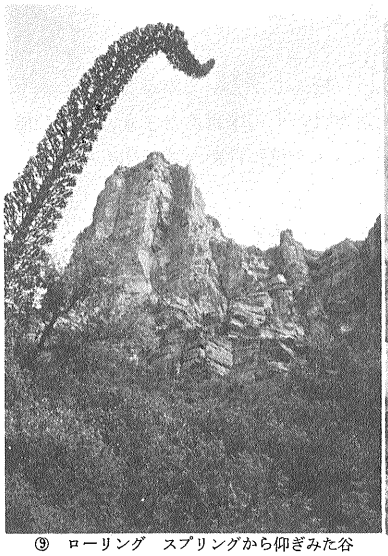
⑧　グラン　ドキャニオン　パノラマ写真でないと全部は写し出せない（グランド　キャニオン国立公園）

が体の節々の痛みは翌日いっぱい残ってしまった.

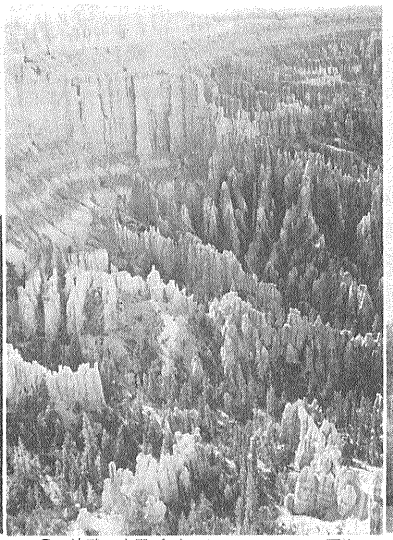
ブライス キャニオン国立公園（ユタ州 1928年制定）

グランド キャニオンで3日目の朝 女子学生達（ウェイトレス等）のコーラスの中でインディアンの酋長にまつりあげられ 鳥の羽根の帽子をのせられた. そしてふたたびバスに乗り 北方約160kmのブライス キャニオンに向った. キャニオンとはいうが 峡谷の感じは全然なく みごとな浸蝕地形とその色彩の美しさがみものだ. パンフットにも colorful "fantasia" of natural formations とある. 公園としてはやや小さく面積150 km².

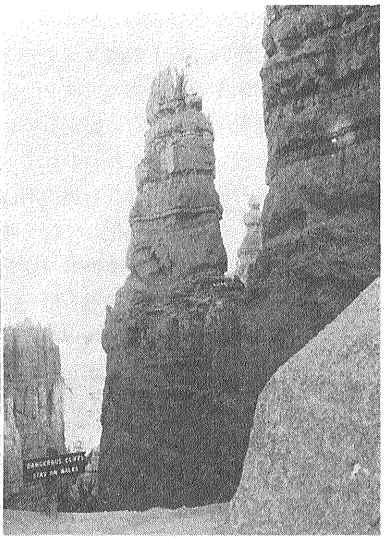
ここの地層は 内陸湖に堆積した600m以上の厚さに達する第三紀の石灰岩からなっている. 今から約千万年前より南部ユタ州の地盤は上昇を開始し 海水面からの高さは3000mに達した. 地盤には断層を生じ 数km²ごとあるいはそれ以上の大きさの地塊群にわかれた. そしてそれ以来現在にいたるまでの不断の浸蝕作用がこの美しい沈黙の宮殿・尖塔・市街・大聖堂・チェスの駒などの模様を創り出したのである(写真⑩～⑬). 石灰岩の成分の違いにより色も ピンク・赤・オレンジそれに白・灰・クリーム色が混り合い カラー写真のパラダイスをつくっている. この公園では 写真をとるのに最適の季節・時間はない. 逆光でも日影が強く出すぎると思っても とにかくシャッターを押せば傑作のでき上ることが保証されている. ただし ここの高度は2400m～2700mあることを心して 食事の後は1時間休憩すること 歩きまわるにも常にゆっくり行動することをお忘れなく.



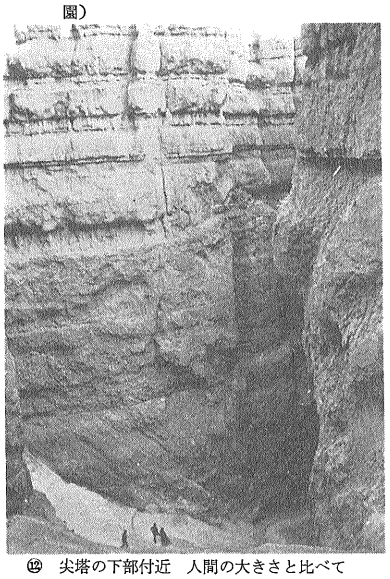
⑨ ローリング スプリングから仰ぎみた谷壁の一部（グランド キャニオン国立公園）



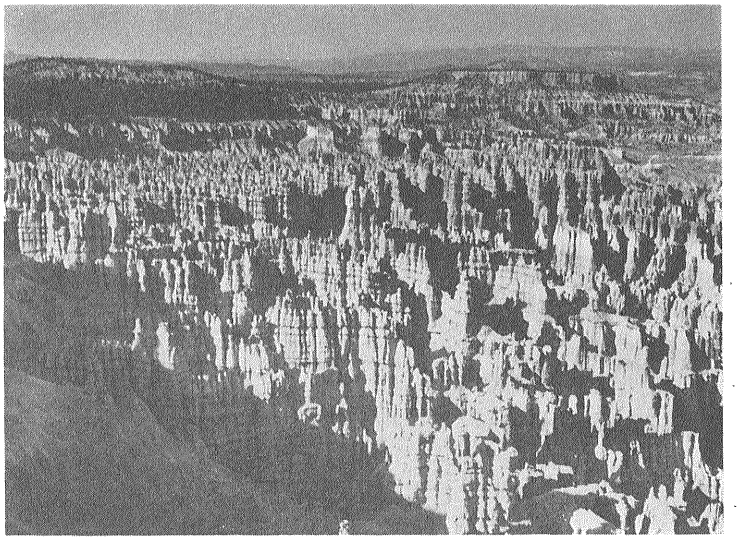
⑩ 沈黙の宮殿（ブライス キャニオン国立公園）



⑪ 浸食によってつくり出された尖塔（ブライス キャニオン国立公園）



⑫ 尖塔の下部付近 人間の大きさと比べて下さい(ブライス キャニオン国立公園)



⑬ ブライス キャニオン国立公園の遠望

エバーグレーズ国立公園(フロリダ州1947年制定)

これは東部にある数少ない公園の中の1つである．フロリダ州マイアミで米国地質学会の年会が開かれた際野外の見学旅行の1コースとして　この地域が入っていた　11月半ばの南部フロリダはデンバー(コロラド州)で雪というのに連日30度近い暑さで　大西洋で水泳を楽しむことができたほどである．　公園はフロリダ半島の南端北緯25度付近に位置し　その面積は千葉県よりやや大きく三重県よりも小さい5300km²にも達する広大なものである．　季節は雨季と乾季の2シーズンがあるのみで冬でも北方諸州の6月の気温と同じ位である．　熱帯性　亜熱帯性の動物・植物が分布しており　地形はほとんど平坦　ハイウェイの最高点は海抜わずか1mである．ここはアリゲーター（わにの1種）が棲息しているので有名であるが　ついに見参することはできなかった．

地表にはほとんど岩石の分布はみられないが　説明によると基盤を作っているのはマイアミ・ウーライト（約5万年前の間氷期の堆積物）であり　土地が平坦なのはこの地方が地質学的に非常に安定していること　最近の地質時代には浅い海に広くおおわれていたことなどによる．　見学旅行のテーマは「石炭の形成環境」であって淡水から海水へと水質が変化して行く時の　エバーグレーズの湿地帯に生えている植物群の変化　植物の遺骸が水底に埋れてできた泥炭　基盤の形と泥炭の分布との関係　浜砂の移動によるマングローブ森林の前進・後退などの様子を　バス・ボートにより　2日にわたって見て歩いた．

とに角　日本の尺度の合わない広大な湿地帯で　バスで1時間位走っても景色はほとんど変らない．　背の低い草が一面に生い繁っている中に“ハンモック”または“木の島”と呼ばれる松柏類の生えたマウンド（高さは1mもなく長さ50～100m位のだ円形の小丘　写真⑭）が点々と散在しているのみである．　そして海水の影響が強くなると松柏類が消えて　マングローブが優勢となってくる．　なお米国でマングローブの森林がみられるのはフロリダの中・南部海岸のみである．　ついに完全な海水の環境では　マングローブの島々が浮かび　海豚が遊ぶ景色がみられるようになる．

第2日目は南端のフラミンゴを出発　ボートでホワイトウォーター湾からメキシコ湾に抜け　フロリダ湾に入って元へ戻る約 100km のコースであったが　途中の見学個所は数ヵ所のみで　ゆけどもゆけどもマングローブの島また島の景色が半日続き　後の半日は海と森林の遠望のみで全くあきあきしてしまった．　湿地帯のために蚊の襲撃がいちじるしく虫除けの薬を顔や腕にしばしば吹きつけて防ぎはしたが　シャツやズボンの上からも刺して来る．　約1年の米国滞在中　蚊に食われたのはここが初めで終りであった．

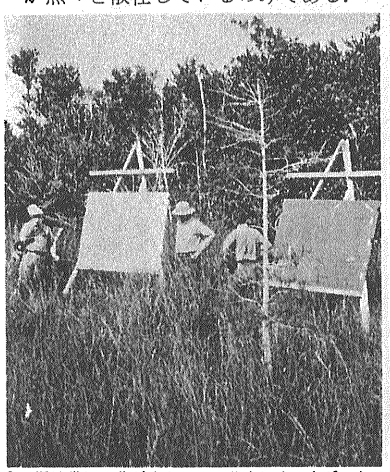
結　び

そして最後にもう一度ふりかえってみることにしよう

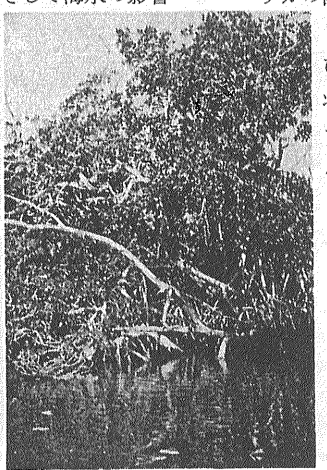
- 国立公園はあなただけのものではありません　公園を汚したり　石・草木を傷つけたり持ち出したりしてはいけません
- 動物に餌をやってはいけません
- 屑はまとめてごみ入れに入れるか　きめられた場所でもやすこと
- 火の用心
- 公園内の道路は高速道路ではありません　ゆっくり走って十分景色をお楽しみ下さい　ただし駐車場のない所での停車は禁じれています
- 夜のドライブでは　動物達に注意して下さい
- わからぬことがあったり　法をおかしている者をみつけたらレインジャー（保護官）に連絡して下さい
- 美しく広大な自然　そしてそれを保護するためのいろいろな規則これらが完全に守られている　これがアメリカの国立公園なのです

ひるがえってわが国の国立公園は　どのような状態であろうか．　このことばがそのまま私たちの国土にある国立公園についても　適用できるようになりたいものである．

（筆者は　燃料部石炭課）



⑭　湿地帯には草が生え　その後方に木の島がみえる
（エバーグレーズ国立公園）



⑮　マングローブの島
（エバーグレーズ国立公園）